



2022年 秋号

7S 病棟副主任 東方 智香



WHO が掲げる「肝炎撲滅」に向けた取り組みとして、肝炎疾患専門医療機関である当院では肝炎医療コーディネーターチームを立ち上げ、2022年1月より医師を含めた多職種で活動を開始しました。

肝炎医療コーディネーターとしての役割は、受検・受診の支援を行うことです。入院中の肝炎ウイルス検査陽性かつ未治療の患者さんを抽出し、パンフレットに沿って受検・受診の必要性の説明と意思決定支援を行い、消化器内科専門医へとつなぐ橋渡しの活動を行っています。



啓発活動として、7月28日の「世界肝炎デー」には、S棟1階に専用ブースを設け、専門医師の無料相談会を行い、チラシ・啓発グッズの配布やポスター掲示等を行い、受検を呼びかけました。

肝臓は「沈黙の臓器」と言われ、症状がなくても気づいた時には肝硬変や肝がんなど命に関わる病気に進行している場合もあります。治療を受ければ進行を遅らすあるいは治癒する新しい薬も登場しています。

より多くの患者さんが適切な治療を受けられることを目指して活動してまいります。



## 仕事と子育てを両立し、長く働きつづけるために

7S 病棟副主任 井関 知津



私は4歳と2歳の男の子を育てながら病棟で副主任として勤務しています。2回の産休・育休を取得し、現在は月2回の夜勤をしながら、勤務をしています。日勤で勤務していることを強みに、スタッフに関わることができるため、新人の技術習得のサポートや表情や小さな変化を感じるように関わり、他の管理者と情報共有を心掛けています。

子供達は地域の幼稚園と病院の企業主導型保育園(松山リエール保育園)を利用しています。子供の体調不良で看護休暇を利用することもあります。病棟スタッフの協力もあり快く休ませてもらっています。

当院の病児保育アイビーも活用しておりますが、小児科医師の診察もあり安心して働くことができます。

仕事は私一人では続けることはできません。家族をはじめ多くの方々のサポートを受け仕事を続けることができています。そして何より仕事帰りに笑顔で駆け寄ってくれる2人の子供達の存在が頑張れる活力になっています。仕事と子育てを両立しているからこそ、両者の大切さを感じることができ今の自分があるのだと思います。

